トビタテNEWS

石川県立大学　キャリアセンター

第９号　　第9期生　環境科学科4年　向　由佳

環境教育の本質ってなに！？を考えるために 自然保護と開発の間に揺れる国、ラオスにゆく。

1．自己紹介

皆さん、サバイディー！（こんにちは。）環境科学科4年の向　由佳です。

環境教育は持続可能な開発のための教育として機能する面を持ち、今後持続可能な社会を実現するために重要な役割を担っています。私はその環境教育について、ラオスで6ヶ月、考えてきました。

2．ラオスってどこ！？どんな国！？

ラオス人民民主共和国は人口約649万人、GDPは2472ドル。物価は日本の約1/3で「ボーペンニャン（気にしないで）」がモットーの穏やかな国です。現在は中国とバンコクをつなぐ鉄道線路建設、水力発電用のダム建設など開発が進む国ですが、豊かな自然を保有しています。

タートルアン

ナイトマーケット

ブルーラグーン

3．ラオスで何をしてきたの？

ラオス国立大学水資源学部に居場所だけ用意してもらって、6か月間、学外活動に飛び回っていました。なので全く大学の講義を受けていません。（笑）すごく楽しかったです。

ラオスでは、人々の身の回りの環境に対する気持ちを知るための活動を行いました。ラオスの若い世代を中心に、アンケート調査や学校見学、対談を実施し、人々の声に耳を傾けてきました。ターゲットがラオスで、若い世代である理由は、**開発と自然保護の間で揺れているラオスの若者の意見が、持続可能な開発のための環境教育が今後どうあるべきかを考えるときに重要だ**と考えたからです。

意識調査

環境教育研修見学

4．ラオスの若者の身の回りの環境に対する素直な気持ち。

たくさんの生徒が環境を守るべきだと答えていました。ラオスでは毎週各学校で教員やNGOの指導の下、ごみ拾いも行っています。でも何人かの生徒がこんな風に訴えてきました。「みんな環境は守るべきだし、ごみ拾いを毎週していますって言うけど、本当は成績のためなんです。ラオスで起きている問題や現状を知らない。もし私たちに環境について教えてくれるのなら、もっと具体的な問題や現状を教えてください。そして自分たちに何ができるのか、教えてください」と。また、自分のキャパシティを超える速さで進んでいる開発にこのままでいいのかと不安になった人が多くいました。

川に浮かぶゴミ

汚れた川の水

思いを書く学生たち

5．私が得たもの、私のこれから

私は留学を通して、**環境教育の本質は、個人、自治体や地域コミュニティ、行政でそれぞれ何ができるのかを考えるきっかけ、場所、情報を提供し、共に考えることである**と考えました。また、持続的に続けるにはそれぞれ自身で考えることが重要で、**何ができるのかを他者から与えることは違う**と考えています。

現在は石川で持続可能な社会を実現するために、環境教育を様々な形で行っている、国連大学サスティナビリティ高等研究所　いしかわ・かなざわオペレーティングユニットでインターンをしています。ここで私は石川で環境教育を行っている自治体と仕事をさせていただき、石川で自分が経験を生かすための将来の進路を探しています。

6．謝辞・メッセージ

石川県立大の先生方、大学コンソーシアム石川スタッフのみなさま、トビタテ！留学JAPAN　地域人材コース協賛企業様のお力がなければ、私はこの学びを手に入れることはありませんでした。心から感謝申し上げます。

誰でも留学するチャンスはある。そのためのトビタテ！です。

私の新聞が留学に行くかを悩んでいる方の一歩踏み出すきっかけになれたら嬉しく思います。

トビタテ！留学JAPAN
その経験が、未来の自信。